

平成 26 年度入学生対象

平成 26 年 2 月 28 日

別記様式 1

主 専 攻 プ ロ グ ラ ム 詳 述 書

開設学部 (学科) 名 [教育学部第三類 (言語文化教育系) 日本語教育系コース]

プログラムの名称 (和文)	日 本 語 教 育 プ ロ グ ラ ム
(英文)	Teaching Japanese as a Second Language
<p>1. プログラムの紹介と概要</p> <p>日本語教育プログラムでは、日本語教員および学際的視野から国際社会に貢献出来る人材を養成する。</p> <p>本プログラムでは、「日本語教員養成の新たな教育内容」(文化庁)に必要なかつ十分に対応したカリキュラム、すなわち、「日本語の教育」、「日本語学習の支援」、「言語の構造」、「言語と行動」、「表現と文化」、「文化の理解」の各領域(以下、日本語教育6領域と称する)に関する基礎的な知識、能力、技能を体系的に履修し、理論・実践の両面を兼ね備えた自己研修型日本語教師を養成する。また、国際交流にかかわる企業・諸団体などで活躍する人材も養成する。</p> <p>さらに本プログラムでは、大学院に進学し高度な教育・研究者を目指す人材を養成する。</p>	
<p>2. プログラムの開始時期とプログラム選択のための既修得要件 (履修科目名及び単位数等)</p> <p>プログラム開始時期は、1年次である。プログラム選択のための既修得要件は、特にない。</p>	
<p>3. プログラムの到達目標と成果</p> <p>(1) プログラムの到達目標</p> <p>本プログラムは、以下の3点の達成をめざす。</p> <ol style="list-style-type: none">1) 日本語教育に関連した基本的な認識を形成し、その研究能力を開発する2) 優れた日本語教育実践力を育成する3) 国際的視野および学際的思考を修得する <p>本プログラムにおける教養教育は、専門教育の基盤づくりを担い、教育学、言語学、文化学、心理学を含む人文科学・社会科学に関する基礎的な知識を習得するとともに、外国語運用能力を向上させ、現代の国際社会や教育の要請に応える総合的な能力や資質を養う。</p> <p>(2) プログラムによる学習の成果 (具体的に身につく知識・技能・態度)</p> <p>○知識・理解</p> <ol style="list-style-type: none">1) 日本語教育の理論と方法に関する基礎的な知識を得る2) 日本語・日本文化の教育に関する基本的な理解を得る3) 日本語教育の現状と課題に関する基本的な理解を得る4) 日本語教育6領域に関する基礎的な知識を得る <p>○知的能力・技能</p> <ol style="list-style-type: none">1) 日本語教育の理論と方法について、調査・実験・資料分析を通じて、理解を深める2) 日本語・日本文化の教育について文献・資料・情報に基づき、個別テーマを設定して研究する	

- 3) 日本語教育の現状と課題について文献・資料・情報を収集・整理し、問題を明確化する
- 4) 日本語教育6領域に関して個別的・専門的に研究する

○実践的能力・技能

- 1) 日本語教育の実践に向けて、その方法を構想・立案することができる
- 2) 日本語教育の実践に向けて、その内容を分析・開発することができる
- 3) 日本語教育の実践に向けて、指導案を構想することができる
- 4) 日本語教育の実践に向けて、新たな研究を計画し、推進することができる

○総合的能力・技能

- 1) 個人、あるいはグループで研究・活動を立案し、効果的に実現することができる
- 2) 個々の研究や教育実践の成果をレポートや論文にまとめ、プレゼンテーションをすることができる
- 3) コンピュータなどITを用いて、基礎的な情報処理や教材開発をすることができる
- 4) 日本語教育6領域の各領域を相互に関連付け、日本語教育の諸問題を改善・創造することができる

4. 教育内容・構造と実施体制

(1) 学位の概要 (学位の種類, 必要な単位数)

本プログラムが提供する学位は、学士(教育学)である。その取得には、本プログラムにて実施される授業科目を選択履修することによって修得する128単位(教養教育46単位, 専門基礎科目18単位, 専門科目30単位, 専門選択科目28単位, 卒業研究6単位, 計128単位)を条件としている。

(2) 得られる資格等

「日本語教育能力検定試験合格の認定」を得ることが可能である。教育職員免許法に基づいて教職関係科目を併せて修得することにより、高等学校教諭一種免許(国語)が取得可能である。また、特定プログラムを追加して修得することで、学芸員、社会教育主事、学校図書館司書教諭などの資格も取得可能である。

(3) プログラムの構造

1年次においては、教養教育科目(教養ゼミ, 外国語科目)のほか、専門基礎科目(「日本語教育学基礎論」等)を履修し、2年次においては、教養教育科目(外国語科目)のほか、専門基礎科目(「日本語教育課程論」「日本語教育と文法」「比較日本文化学」等)の履修に加えて、専門科目(「学校日本語教育」等)を履修し、2年次終了までに教養教育科目を累計28単位以上、専門教育科目を累計10単位以上、修得する。

3年次においては、残りの専門基礎科目(「言語心理学」等)のほか、専門科目群(「言語の比較と対照研究」「多文化間教育論」等)の大部分を履修し、3年次終了時点で、教養教育科目累計28単位以上、専門教育科目累計20単位以上を修得する。4年次においては、専門基礎科目(「日本語教育学特定研究Ⅰ・Ⅱ」必修), 専門科目(「日本語教育実習研究」選択)のほか、自由選択科目を履修し、最終的に「卒業研究(卒業論文)必修」を修得する。4年次終了時点で、教養教育科目を累計46単位以上、専門教育科目(卒業研究を含む)を累計82単位以上、修得する。

以上の履修の流れについては、別紙2-1, 2-2, 2-3を参照のこと。

(4) 卒業論文（卒業研究）（位置付け、配属方法・時期等）

○目的

卒業論文は、本プログラムを通して身につけた、「知識・理解」、「知的能力・技能」、「実践的能力・技能」、「総合的能力・技能」を活用し、日本語教育6領域に関する独自の課題を設けて、研究成果をまとめることを目的にする。

○概要

日本語教育6領域から1研究領域を選択し、卒業論文指導教員の指導の下、各自が選択する研究テーマに即して研究を進め、4年次10月の所定期日に研究テーマを、1月末には卒業論文を提出する。

○配属時期と配属方法

3年次後期中に、卒業論文指導教員を決め、主要な研究領域を決定する。4年次に日本語教育学特定研究Ⅰ・Ⅱを履修し、卒業論文作成を行う。

5. 授業科目及び授業内容

別紙3を参照のこと。シラバスについては、「Myもみじ」または広島大学公式ウェブサイト「入学案内」を参照のこと。

6. 教育・学習

(1) 教育方法・学習方法

別紙1を参照のこと。

(2) 学習支援体制

○教員による支援

- 1) チューター制度：1年次から3年次までは、学年チューターが指導する
- 2) 卒業論文：4年次は、卒業論文指導教員が指導する
- 3) プログラム委員会：主として日本語教育学講座の教員が当たり、学生の学習支援体制を作る
- 4) 講座支援室：日本語教育学講座が、本プログラムにおける教育の支援に当たる（連絡窓口は、日本語教育学講座事務補佐員（教育学部A棟1階112研究室）である）
- 5) 講座事務室：IT機器、日本語教育ビデオ教材等によって、学習を支援する
- 6) 講座図書室：日本語教育学講座図書室の図書、資料等によって、学習を支援する
- 7) 講座スタジオ：映像・音声のデジタル編集・保存機器等によって、学習を支援する
- 8) 講座音声実験室：実験機器等によって、学習を支援する

7. 評価（試験・成績評価）

(1) 到達度チェックの仕組み

○個人成績

- 1) 「知識・理解」「能力・技能」の評価は、「非常に優れている」、「優れている」、「基準に到達している」、「（評価表に）記載なし」の4段階評価とする
- 2) 授業科目ごとの成績は、所定の計算法により、GPAとして累積する
- 3) 学年ごとに、GPAを算出し、個人の基本成績レベルが確認できるようにする
- 4) 「知識・理解」「能力・技能」の評価は、年度終了ごとに到達度評価表としてまとめ、学年チューターを経

由して学生に交付する

○成績評価

- 1) 1年次, 2年次, 3年次には, 取得単位数と成績達成水準により, 次年次への進級が判断される
- 2) 未達成者には, 問題点と課題が提示される。本来の水準に達したときに, 次年次に進級できる
- 3) 4年次では, これまでの成績, 卒業要件単位数, 評価項目ごとの到達度に加味して, 日本語教育研究や卒業論文の成績により, 本プログラムでの総合的な成績評価が提示される

(2) 成績が示す意味

別紙4を参照のこと。

8. プログラムの責任体制と評価

(1) PDCA責任体制 (計画(plan)・実施(do)・評価 (check)・改善 (action))

本プログラムは, 主として教育学部の日本語教育学講座のスタッフにより遂行される。遂行上の責任は, プログラム責任者 (日本語教育学講座の主任) にある。計画・実施・評価・改善は, 本プログラム教員会が行う。なお, プログラム外からの評価・改善は, 教育学部内の担当部会により進められ, プログラムの到達度が評価され, 勧告が示される。

(2) プログラムの評価

○プログラム評価の観点

本プログラムでは, 教育的効果と社会的効果を評価の観点にする。教育的効果では, プログラムの実施自体における学生の学習効果を判定する。社会的効果では, プログラムの学習結果の社会的有効性を判定する。

○評価の実施方法

本プログラムは, 上記の評価の観点にしたがい, 原則として入学して4年経た年次にプログラム自体の成果を評価する。第1の教育的効果に関しては, 本プログラムを学習した学生の到達率 (卒業要件の充足と日本語教員資格の充足) による評価, および, 実施した教員グループによる総合的な評価によって, 行われる。単位充足率とともに, 教員の総合評価にもとづいて, 本プログラムの到達水準まで各学生が達したかどうか, 学生全体でどのような割合で達したのかを調べ, 75%以上の達成率があるかどうかを点検する。

第2の社会的効果に関しては, 国内外における日本語教員 (国語教員を含む), および国際交流にかかわる企業・諸団体などへの就職・活動状況によって評価する。

○学生へのフィードバック

プログラムの評価結果はプログラム担当委員会において, プログラム内容を見直し, 改善するとともに, 学生指導, 各授業科目の効果を検討し, 検討結果を下学年のプログラム運営・実施に反映させる。

※担当教員リストは, 別紙5を参照。

プログラムの教育・学習方法

○ 知識・理解

<p>身につく知識・技能・態度等</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 日本語教育の理論と方法に関する基礎的な知識を得る 2) 日本語・日本文化の教育に関する基本的な理解を得る 3) 日本語教育の現状と課題に関する基本的な理解を得る 4) 日本語教育6領域に関する基礎的な知識を得る 	<p>教育・学習の方法</p> <p>日本語教育における基礎的な知識・理解(1～4)は、教養コア科目、専門基礎科目、専門科目における講義、実習・演習など、また、各授業科目が課す自己学習、課題、レポート作成などを通じて、獲得できるようにする。</p> <p>評価</p> <p>知識・理解(1～4)は、各授業科目にて行う中間試験や期末試験、課題やレポートを通して評価する。</p>
---	---

○ 知的能力・技能

<p>身につく知識・技能・態度等</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 日本語教育の理論と方法について、調査・実験・資料分析を通じて、理解を深める 2) 日本語・日本文化の教育について文献・資料・情報に基づき、個別テーマを設定して研究する 3) 日本語教育の現状と課題について文献・資料・情報を収集・整理し、問題を明確化する 4) 日本語教育6領域に関して個別的・専門的に研究する 	<p>教育・学習の方法</p> <p>知的能力・技能(1～4)は、プログラムの各授業科目における講義、実習・演習を通じて基礎を身につけ、グループ討議や共同研究、またケーススタディ、フィールドワークや実験・実習などを通じて修得する。</p> <p>評価</p> <p>知的能力・技能(1～4)は、実習・演習そのほかのフィールドワーク、資料研究などにおけるグループ学習、討議、研究、課題やレポートによって評価する。</p>
--	---

○ 実践的能力・技能

<p>身につく知識・技能・態度等</p> <ol style="list-style-type: none">1) 日本語教育の実践に向けて、その方法を構想・立案することができる2) 日本語教育の実践に向けて、その内容を分析・開発することができる3) 日本語教育の実践に向けて、指導案を構想することができる4) 日本語教育の実践に向けて、新たな研究を計画し、推進することができる	<p>教育・学習の方法</p> <p>実践的能力・技能（1～4）は、日本語教育6領域の演習および実地研究、実習研究等における、課題研究、カリキュラム作成、教材開発等の課題遂行作業を通して修得する。</p> <p>評価</p> <p>実践的能力・技能は（1～4）は、特定課題の遂行の過程、結果で評価する。</p>
---	---

○ 総合的能力・技能

<p>身につく知識・技能・態度等</p> <ol style="list-style-type: none">1) 個人、あるいはグループで研究・活動を立案し、効果的に実現することができる2) 個々の研究や教育実践の成果をレポートや論文にまとめ、プレゼンテーションをすることができる3) コンピュータなど IT を用いて、基礎的な情報処理や教材開発をすることができる4) 日本語教育6領域の各領域を相互に関連づけ、日本語教育の諸問題を改善・創造することができる	<p>教育・学習の方法</p> <p>総合的能力・技能（1～4）は、教養ゼミ等教養的科目および専門科目を通して修得する。また、個別の演習・実習・IT 関連授業等における成果をまとめ、レポートや論文を完成し発表する。</p> <p>評価</p> <p>総合的能力・技能（1～4）は、プログラム全体を通して総合的に評価する。とりわけ、個別研究やレポート・論文作成において、学生自身がどの程度のレベルまで達成したのかを確認できるようにする。</p>
--	---

別紙2-1 主専攻プログラム モデル体系図

(専門教育における) 学習の成果	教養教育 到達目標	1年		2年		3年		4年	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
		日本語教育の理論と方法に関する基礎的な知識を得る。	外国語を活用して、口頭や文書で日常的なコミュニケーションを図ることができる。	外国語科目(◎○)	外国語科目(◎○) 言語学の理論と方法(○)	外国語科目(○)	外国語科目(○) 第二言語学習の心理(○)	言語心理学(○)	
日本語・日本文化の教育に関する基本的な理解を得る。	複数の外国語を活用することで、多くの言語や文化を理解できる。	外国語科目(○) 領域科目(○)	外国語科目(○) 領域科目(○) 日本語の構造(○)	外国語科目(○) 領域科目(○) 日本語の文法(○) 日本語の語彙と意味(○) 比較日本文化学(○) 異文化接触と文化学習(○)	外国語科目(○) 領域科目(○) 社会言語学(○) 日本文学と文化(○) 日本文化研究(○) 日本語文字・表記研究(△)				日本語教育学 特定研究Ⅱ(◎)
日本語教育の現状と課題に関する基本的な理解を得る。	人類や社会が抱える歴史的・現代的課題について、多角的な視点から説明できる。	パッケージ別科目(○)	パッケージ別科目(○)	日本語教育課程論(○)	日本語教育と文法(○) 日本語の習得と指導(○)			日本語教育学 特定研究Ⅰ(◎)	
日本語教育6領域に関する基礎的な知識を得る。	各学問領域について、その形成過程・発展過程を説明できる。	領域科目(○) 日本語教育学基礎論(◎)	領域科目(○)	領域科目(○)	領域科目(○)				
	多角的な視点から平和について考え、自分の意見を述べるができる。理念と現実の葛藤を含め、平和を妨げる種々の要因とそこでの複雑な様相について理解し、説明できる。	平和科目(○)	平和科目(○)						
日本語教育の理論と方法について、調査・実験・資料分析を通じて、理解を深める。	基礎的な方法で資料を収集できる。	教養ゼミ(◎)				語用論(△)			
日本語・日本文化の教育について文献・資料・情報に基づき、個別テーマを設定して研究する。	特定の学際的・総合的なトピックス又は研究の最前線や社会問題のトピックスについて、複数の視点から説明できる。			日本語の表現と論理(○)		日本語の変遷(△) 言語の比較と対照研究(△) 日本語位相論(△) 東アジアの中の日本文化(△) 社会文化学(△) 多文化間教育論(△)			
日本語教育の現状と課題について文献・資料・情報を収集・整理し、問題を明確化する。	特定の事象から課題を発見し、説明できる。	教養ゼミ(◎)			学校日本語教育(△)				
日本語教育6領域に関して個別的・専門的に研究する。	各学問領域が文化・社会とどのように関わっているのかについて、説明できる。	領域科目				日本の近現代文学(△) 近代日本文学史(△)			
	体力・健康づくりの必要性を科学的に説明できる。スポーツの実践を通じて、生涯にわたってスポーツを楽しむ意義や、マナー・協調性などの重要性を理解し、説明できる。	健康スポーツ科目(○)	健康スポーツ科目(○)						

知識・理解

知的能力・技能

プログラムの構造

	コア科目	オプション科目	履修基準(進級基準)
1年生	教養教育科目: 教養ゼミ 平和科目 パッケージ別科目 外国語科目 情報科目 領域科目 健康スポーツ科目 教職科目: 専門基礎科目: 日本語教育学基礎論 日本語の構造 言語学の理論と方法	教養教育科目: 領域科目 教職科目:	
2年生	教養教育科目: 外国語科目 領域科目 教職科目: 専門基礎科目: 日本語教育課程論 日本語教授法研究 日本語教育と文法 日本語の音声と発音 日本語学習とマルチメディア 第二言語学習の心理 日本語の文法 社会言語学 日本語の習得と指導 日本語の表現と論理 日本文学と文化 日本語の語彙と意味 比較日本文化学 日本文化研究 異文化接触と文化学習	教養教育科目: 教職科目: 専門科目: 学校日本語教育 日本語文字・表記研究 日本語語彙論・意味論演習 言語学概説A (文学部) 一般言語学基礎演習A (文学部) 統語論 (総合科学部)	・教養教育科目を累計28単位以上 修得していること ・専門教育科目を累計10単位以上 修得していること

3年生

教養教育科目：

教職科目：

専門基礎科目：
言語心理学

専門科目：
日本語技能指導論
日本語教育海外実習研究

教養教育科目：

教職科目：

専門科目：
学習者言語の研究
日本語の変遷
日本語文法演習
言語の比較と対照研究
対照言語学演習
語用論
第二言語習得論演習
日本語位相論
表現法演習
近代日本文学史
東アジアのなかの日本文化
社会文化学
多文化間教育論
日本の近現代文学
日本文化学演習
比較文化学演習
異文化間教育学演習

・教養教育科目を累計28単位以上
修得していること

・専門教育科目を累計20単位以上
修得していること

4年生

教養教育科目：

専門基礎科目：
日本語教育学特定研究Ⅰ
日本語教育学特定研究Ⅱ

専門科目：
日本語教育実習研究

卒業研究：
卒業論文

教養教育科目：

教職科目：
教職実践演習

・教養教育科目を累計46単位以上
修得していること

・専門教育科目(卒業研究を含む)
累計82単位以上修得していること

日本語教育プログラム構造図

教養教育科目

- 教養ゼミ
- 平和科目
- パッケージ別科目
- 外国語科目
- 情報科目
- 領域科目
- 健康スポーツ科目

第1・第2ステップ 専門的教育科目 I

- ・プログラム登録確定
- ・日本語教育6領域(「日本語の教育」,「日本語学習の支援」,「言語の構造」,「言語と行動」,「表現と文化」,「文化の理解」)に関する基礎的な知識,能力,技能の習得

専門基礎科目

- ※必修科目
- ※必修選択科目

専門科目

- ※選択必修科目
- ※選択科目



第3・第4ステップ 専門的教育科目 II

- ・プログラム登録確定
- ・日本語教育6領域に関する高度な知識,能力,技能の習得
- ・自己研修型日本語教師の養成
- ・国際交流などで活躍する人材の養成

専門基礎科目

「日本語教育能力試験」等の認定

教育実習

専門科目

日本語教育実習

日本語教育学特定研究 I・II
卒業研究 教職実践演習

教 養 教 育 科 目 履 修 基 準 表

第三類 日本語教育系コース（日本語教育プログラム）

区分	科目区分	要修得単位数	授業科目等	単位数	履修区分	履修セメスター(注1)													
						1年次		2年次		3年次		4年次							
						1セメ	2セメ	3セメ	4セメ	5セメ	6セメ	7セメ	8セメ						
教養教育科目	教養ゼミ	2	教養ゼミ	2	必修	○													
		2	平和科目	2	選択必修	○	○												
		6	パッケージ別科目	決定された1パッケージから3科目	2	選択必修	○	○											
	外国語科目	英語 (注2)	2	コミュニケーション基礎	1	必修	○												
				コミュニケーション基礎Ⅱ	1			○											
			4	コミュニケーションⅠ(注3)	コミュニケーションⅠA	1	選択必修	○											
					コミュニケーションⅠB	1		○											
				コミュニケーションⅡ(注3)	コミュニケーションⅡA	1			○										
					コミュニケーションⅡB	1			○										
		2	コミュニケーションⅢ	上記4科目から2科目以上		選択必修													
				コミュニケーションⅢA	1														
				コミュニケーションⅢB	1				○	○									
				コミュニケーションⅢC	1														
		上記3科目から2科目																	
		4	初修外国語 (ドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語、韓国語のうちから1言語選択)	ベーシック外国語Ⅰから2科目	1	選択必修	○												
	ベーシック外国語Ⅱから2科目			1			○												
	2	情報科目	(注4)	2	選択必修	○													
	4	領域科目	インテンシブ外国語ⅠA	1	必修 (注5)	○													
			インテンシブ外国語ⅠB	1		○													
			インテンシブ外国語ⅡA	1			○												
インテンシブ外国語ⅡB			1			○													
(16)			すべての領域から(注6)	1又は2		選択必修	○	○	○	○									
2	健康スポーツ科目		1又は2	選択必修	○	○													
(0)	基盤科目		1～3	自由選択	○	○	○	○											
	計	46																	

注1：○印は標準履修セメスターを表している。なお、当該セメスターで単位を修得できなかった場合はこれ以降に履修することも可能である。授業科目により実際に開講するセメスターが異なる場合があるので、毎年度発行する教養教育科目授業時間割等で確認すること。

注2：短期語学留学等による「英語圏フィールドリサーチ」又は自学自習による「マルチメディア英語演習」の履修により修得した単位を、卒業に必要な英語の単位に代えることが可能である。また、外国語技能検定試験、語学研修による単位認定制度もある。詳細については、学生便覧の教養教育の英語に関する項及び「外国語技能検定試験等による単位認定の取扱いについて」を参照すること。

注3：時間割編成の都合上、1セメスターは「コミュニケーションⅠA」及び「コミュニケーションⅠB」が、2セメスターは「コミュニケーションⅡA」及び「コミュニケーションⅡB」が指定されている。

注4：1セメスター開設の「情報活用基礎」を履修すること。なお、「情報活用基礎」の単位を修得できなかった場合は、2セメスター開設の「情報活用演習」を履修することができる。

注5：初修外国語で選択した言語と同一言語の「インテンシブ外国語」を1年次に選択・履修し、4単位を修得すること。4単位に満たなかった場合は、2年次以降に「インテンシブ外国語」を再履修し、単位を修得すること。なお、「インテンシブ外国語」は初修外国語と連動しており、「インテンシブ外国語」のみを再履修することはできない。再履修の際は、登録方法に注意すること。

注6：・専門分野以外の分野から履修することが望ましい。
・教育職員免許状を取得するためには、「日本国憲法」の2単位を修得する必要がある。
・修得した基盤科目の単位を算入することができる。ただし、6単位を限度とする。

学部履修基準

第三類（言語文化教育系）

○ 日本語教育系コース（日本語教育プログラム）

科目区分等			要修得単位数	開設学部		
教 養 教 育	教養コア科目	教 養 ゼ ミ	2	46	総合科学部ほか	
		平 和 科 目	2			
		パ ッ ケ ー ジ 別 科 目	6			
	共通科目	外国語科目	英 語			8
			初修外国語			4
		情 報 科 目	2			
		領 域 科 目	(20)			
	健 康 ス ポ ー ツ 科 目	2				
	基 盤 科 目	(0)				
専 門 教 育	専 門 基 礎 科 目	18	82	教育学部ほか		
	専 門 科 目	30				
	専 門 選 択 科 目	28				
	卒 業 研 究	6				
合 計			128			

専門教育科目履修基準

第三類 日本語教育系コース（日本語教育プログラム）

履修内容		要修得単位数		開設
専門基礎科目	必修科目	4	48	日本語教育系コース
	日本語の教育	14		
	日本語学習の支援			
	言語の構造			
	言語と行動			
	表現と文化			
	文化の理解			
専門科目	30			
専門選択科目		28	教育学部ほか	
卒業研究		6	日本語教育系コース	

<履修上の注意>

- 「必修科目」以外の専門基礎科目の14単位は、「日本語の教育」、「日本語学習の支援」、「言語の構造」、「言語と行動」、「表現と文化」、「文化の理解」の6分野の中から4分野以上にわたって履修すること。
- 「必修科目」以外の専門基礎科目の修得単位数が14単位を超えた場合は、超過した単位数を専門科目の要修得単位数30単位の一部として認める。
- 『専門選択科目』欄の副専攻プログラム及び特定プログラムの修得単位数は、28単位まで認める。

第三類 日本語教育系コース（日本語教育プログラム）

○印は必修

区分	授業科目	開 単 位 設 数	学 期 別 週 授 業 時 数								免 許 法 該 当 科 目	備 考		
			1 セ メ	2 セ メ	3 セ メ	4 セ メ	5 セ メ	6 セ メ	7 セ メ	8 セ メ				
専 門 基 礎 科 目	必修科目	日本語教育学基礎論	②	2										
		日本語教育学特定研究Ⅰ	①							2				
		日本語教育学特定研究Ⅱ	①									2		
	日本語の教育	日本語教育課程論	2			2								
		日本語教授法研究	2			2								
		日本語教育と文法	2				2						国語学	
	日本語学習の支援	日本語の音声と発音	2				2						〃	
		日本語学習とマルチメディア	2				2							
		第二言語学習の心理	2				2							
	言語の構造	日本語の構造	2		2								国語学	
		日本語の文法	2			2							〃	
		言語学の理論と方法	2		2									
	言語と行動	社会言語学	2				2							
		日本語の習得と指導	2				2							
		言語心理学	2					2						
	表現と文化	日本語の表現と論理	2			2							国語学	
		日本文学と文化	2				2						国文学	
		日本語の語彙と意味	2			2							国語学	
文化の理解	比較日本文学	2			2									
	日本文化研究	2				2								
	異文化接触と文化学習	2			2									
専 門 科 目	学校日本語教育	2				2								
	学習者言語の研究	2					2							
	日本語文字・表記研究	2				2						国語学		
	日本語技能指導論	2					2							
	日本語の変遷	2					2					国語学		
	日本語文法演習	2					2					〃		
	言語の比較と対照研究	2					2							
	対照言語学演習	2						2						
語用論	2					2								

区分	授業科目	開単 設数	学期別週授業時数								免許法該当科目	備考
			1 セメ	2 セメ	3 セメ	4 セメ	5 セメ	6 セメ	7 セメ	8 セメ		
専門 科目	第二言語習得論演習	2						2				
	日本語位相論	2					2				国語学	
	表現法演習	2						2			〃	
	日本語語彙論・意味論演習	2				2					〃	
	近代日本文学史	2						2			国文学	
	東アジアのなかの日本文化	2					2					
	社会文化学	2					2					
	多文化間教育論	2					2					
	日本の近現代文学	2					2				国文学	
	日本文化学演習	2						2				
	比較文化学演習	2						2				
	異文化間教育学演習	2						2				
	言語学概説A	2			2							文学部
	一般言語学基礎演習A	2			2							文学部
	統語論	2			2							総合科学部
	日本語教育海外実習研究	2						2				
日本語教育実習研究	2							2				
専門 選択科目	本コース，本学部他コース，特別科目及び他学部等が開設する専門教育科目（副専攻プログラム及び特定プログラムを含む。）											
卒業研究	卒業論文	⑥										

到達目標評価項目と評価基準の表

○ 知識・理解

評価項目	非常に優れている (Best)	優れている (Modal)	基準に達している (Threshold)	備考 (適用科目名を記載) ※ () 内は履修セメスター
1) 日本語教育の理論と方法に関する基礎的な知識を得る	日本語教育の理論と方法に関する基礎的な知識を身につけ、それに基づき、問題点や課題を指摘し、解決への新たな展望を得ることができる	日本語教育の理論と方法に関する基礎的な知識を身につけ、それに基づき、問題点や課題を指摘することができる	日本語教育の理論と方法に関する基礎的な知識を身につける	別表のとおり
2) 日本語・日本文化の教育に関する基本的な理解を得る	日本語・日本文化の教育に関する基本的な理解を得、それに基づき、問題点や課題を指摘し、解決への新たな展望を得ることができる	日本語・日本文化の教育に関する基本的な理解を得、それに基づき、問題点や課題を指摘することができる	日本語・日本文化の教育に関する基本的な理解を得る	別表のとおり
3) 日本語教育の現状と課題に関する基本的な理解を得る	日本語教育の現状と課題に関する基本的な理解を得、それに基づき、問題点や課題を指摘し、解決への新たな展望を得ることができる	日本語教育の現状と課題に関する基本的な理解を得、それに基づき、問題点や課題を指摘することができる	日本語教育の現状と課題に関する基本的な理解を得る	別表のとおり
4) 日本語教育6領域に関する基礎的な知識を得る	日本語教育6領域に関する基礎的な知識を身につけ、それに基づき、問題点や課題を指摘し、解決への新たな展望を得ることができる	日本語教育6領域に関する基礎的な知識を身につけ、それに基づき、問題点や課題を指摘することができる	日本語教育6領域に関する基礎的な知識を身につける	別表のとおり

○ 知的能力・技能

評価項目	非常に優れている (Best)	優れている (Modal)	基準に達している (Threshold)	備考 (適用科目名を記載) ※ () 内は履修セメスター
1) 日本語教育の理論と方法について、調査・実験・資料	日本語教育の理論と方法について、調査・実験・資料分	日本語教育の理論と方法について、調査・実験・資料分	日本語教育の理論と方法について、調査・実験・資料分	別表のとおり

料分析を通じて、理解を深める	析を通じて、理解を深め、それに基づき、問題点や課題を指摘し、解決への新たな展望を得ることができる	析を通じて、理解を深め、それに基づき、問題点や課題を指摘することができる	析を通じて、理解を深める	
2) 日本語・日本文化の教育について文献・資料・情報に基づき、個別テーマを設定して研究する	日本語・日本文化の教育について文献・資料・情報に基づき、個別テーマを設定して研究し、顕著な成果を得ることができる	日本語・日本文化の教育について文献・資料・情報に基づき、個別テーマを設定して研究し、成果を得ることができる	日本語・日本文化の教育について文献・資料・情報に基づき、個別テーマを設定して研究することができる	別表のとおり
3) 日本語教育の現状と課題について文献・資料・情報を収集・整理し、問題を明確化する	日本語教育の現状と課題について文献・資料・情報を適切に収集・整理し、問題を明確化し、解決への新たな解決策を提示することができる	日本語教育の現状と課題について文献・資料・情報を適切に収集・整理し、複数の問題を明確化する	日本語教育の現状と課題について文献・資料・情報を収集・整理し、問題を明確化する	別表のとおり
4) 日本語教育6領域に関して個別的・専門的に研究する	日本語教育6領域に関して個別的・専門的に研究し、顕著な成果を得ることができる	日本語教育6領域に関して個別的・専門的に研究し、成果を得ることができる	日本語教育6領域に関して個別的・専門的に研究することができる	別表のとおり

○ 実践的能力・技能

評価項目	非常に優れている (Best)	優れている (Modal)	基準に達している (Threshold)	備考 (適用科目名を記載) ※ () 内は履修セメスター
1) 日本語教育の実践に向けて、その方法を構想・立案することができる	日本語教育の実践に向けて、その方法を具体的かつ適切に構想・立案することができる	日本語教育の実践に向けて、その方法を具体的に構想・立案することができる	日本語教育の実践に向けて、その方法を構想・立案することができる	別表のとおり
2) 日本語教育の実践に向けて、その内容を分析・開発することができる	日本語教育の実践に向けて、その内容を批判的に分析し、より優れたものを開発することができる	日本語教育の実践に向けて、その内容を総合的に分析・開発することができる	日本語教育の実践に向けて、その内容を分析・開発することができる	別表のとおり
3) 日本語教育の実践に向けて、指導案を構想することができる	日本語教育の実践に向けて、効果的で実践可能な指導案を構想することができる	日本語教育の実践に向けて、実践可能な指導案を構想することができる	日本語教育の実践に向けて、指導案を構想することができる	別表のとおり

4) 日本語教育の実践に向けて、新たな研究を計画し、推進することができる	日本語教育の実践に向けて、新たな研究を具体的に計画し、効率的に推進することができる	日本語教育の実践に向けて、新たな研究を具体的に計画し、推進することができる	日本語教育の実践に向けて、新たな研究を計画し、推進することができる	別表のとおり
--------------------------------------	---	---------------------------------------	-----------------------------------	--------

○ 総合的能力・技能

評価項目	非常に優れている (Best)	優れている (Modal)	基準に達している (Threshold)	備考 (適用科目名を記載) ※ () 内は履修セマスター
1) 個人、あるいはグループで研究・活動を立案し、効果的に実現することができる	個人、あるいはグループで研究・活動を独創的に立案し、効果的に実現することができる	個人、あるいはグループで研究・活動を適切に立案し、効果的に実現することができる	個人、あるいはグループで研究・活動を立案し、効果的に実現することができる	別表のとおり
2) 個々の研究や教育実践の成果をレポートや論文にまとめ、プレゼンテーションをすることができる	個々の研究や教育実践の成果を優れたレポートや論文にまとめ、説得力のあるプレゼンテーションをすることができる	個々の研究や教育実践の成果を優れたレポートや論文にまとめ、プレゼンテーションをすることができる	個々の研究や教育実践の成果をレポートや論文にまとめ、プレゼンテーションをすることができる	別表のとおり
3) コンピュータなど IT を用いて、基礎的な情報処理や教材開発をすることができる	コンピュータなど IT を効果的に用いて、基礎的・応用的な情報処理や教材開発をすることができる	コンピュータなど IT を効果的に用いて、基礎的な情報処理や教材開発をすることができる	コンピュータなど IT を用いて、基礎的な情報処理や教材開発をすることができる	別表のとおり
4) 日本語教育 6 領域の各領域を相互に関連づけ、日本語教育の諸問題を改善・創造することができる	日本語教育 6 領域の各領域を相互に有機的に関連づけ、体系的な視点から、日本語教育の諸問題を改善・創造することができる	日本語教育 6 領域の各領域を相互に有機的に関連づけ、日本語教育の諸問題を改善・創造することができる	日本語教育 6 領域の各領域を相互に関連づけ、日本語教育の諸問題を改善・創造することができる	別表のとおり

担 当 教 員

担当教員名	担 当 授 業 科 目 等	備 考
倉 地 暁 美	担当授業科目：日本語教育学基礎論 異文化接触と文化学習 多文化間教育論 異文化間教育学演習 日本語教育学特定研究Ⅰ 日本語教育学特定研究Ⅱ 卒業論文 世界の中の日本語・日本文化 研究室の場所：教育学部棟 A110 E-mail アドレス：akemi@hiroshima-u.ac.jp	(オムニバス) (教養教育科目 ・オムニバス)
酒 井 弘	担当授業科目：日本語教育学基礎論 言語学の理論と方法 言語の比較と対照研究 対照言語学演習 日本語教育学特定研究Ⅰ 日本語教育学特定研究Ⅱ 卒業論文 世界の中の日本語・日本文化 研究室の場所：教育学部棟 A311 E-mail アドレス：hsakai@hiroshima-u.ac.jp	(オムニバス) (教養教育科目 ・オムニバス)
白 川 博 之	担当授業科目：日本語教育学基礎論 日本語の構造 日本語教育と文法 日本語の文法 日本語文法演習 日本語教育学特定研究Ⅰ 日本語教育学特定研究Ⅱ 卒業論文 世界の中の日本語・日本文化 研究室の場所：教育学部棟 A105 E-mail アドレス：hshirak@hiroshima-u.ac.jp	(オムニバス) (オムニバス) (教養教育科目 ・オムニバス)

<p>中村 春作</p>	<p>担当授業科目：日本語教育学基礎論 日本文化研究 東アジアのなかの日本文化 日本文化学演習 日本語教育学特定研究Ⅰ 日本語教育学特定研究Ⅱ 卒業論文 世界の中の日本語・日本文化</p> <p>研究室の場所：教育学部棟 A204 E-mail アドレス：shunsaku@hiroshima-u.ac.jp</p>	<p>(オムニバス)</p> <p>(教養教育科目 ・オムニバス)</p>
<p>西原 大輔</p>	<p>担当授業科目：日本語教育学基礎論 日本文学と文化 近代日本文学史 日本の近現代文学 日本語教育学特定研究Ⅰ 日本語教育学特定研究Ⅱ 卒業論文 世界の中の日本語・日本文化</p> <p>研究室の場所：教育学部棟 A310 E-mail アドレス：west@hiroshima-u.ac.jp</p>	<p>(オムニバス)</p> <p>(教養教育科目 ・オムニバス)</p>
<p>畑佐 由紀子</p>	<p>担当授業科目：日本語教育学基礎論 日本語の習得と指導 日本語技能指導論 日本語教育実習研究 日本語教育学特定研究Ⅰ 日本語教育学特定研究Ⅱ 卒業論文 世界の中の日本語・日本文化</p> <p>研究室の場所：教育学部棟 A108 E-mail アドレス：yhatasa@hiroshima-u.ac.jp</p>	<p>(オムニバス)</p> <p>(教養教育科目 ・オムニバス)</p>
<p>松見 法男</p>	<p>担当授業科目：日本語教育学基礎論 第二言語学習の心理 言語心理学 第二言語習得論演習 日本語教育学特定研究Ⅰ</p>	<p>(オムニバス)</p>

	<p>日本語教育学特定研究Ⅱ 卒業論文 教職実践演習 世界の中の日本語・日本文化</p> <p>研究室の場所：教育学部棟 A106 E-mail アドレス：nmatsu@hiroshima-u.ac.jp</p>	<p>(教養教育科目 ・オムニバス)</p>
柳澤浩哉	<p>担当授業科目：日本語教育学基礎論 日本語の構造 日本語の表現と論理 日本語文字・表記研究 表現法演習 日本語教育学特定研究Ⅰ 日本語教育学特定研究Ⅱ 卒業論文 教養ゼミ 世界の中の日本語・日本文化</p> <p>研究室の場所：教育学部棟 A308 E-mail アドレス：yanagisa@hiroshima-u.ac.jp</p>	<p>(オムニバス) (オムニバス)</p> <p>(教養教育科目) (教養教育科目 ・オムニバス)</p>
永田良太	<p>担当授業科目：日本語教育学基礎論 日本語教授法研究 社会言語学 語用論 日本語教育学特定研究Ⅰ 日本語教育学特定研究Ⅱ 卒業論文 教職実践演習 世界の中の日本語・日本文化</p> <p>研究室の場所：教育学部棟 A107 E-mail アドレス：ryota@hiroshima-u.ac.jp</p>	<p>(オムニバス)</p> <p>(教養教育科目 ・オムニバス)</p>
西村大志	<p>担当授業科目：日本語教育学基礎論 比較日本文化学 社会文化学 比較文化学演習 日本語教育学特定研究Ⅰ 日本語教育学特定研究Ⅱ</p>	<p>(オムニバス)</p>

	<p>卒業論文 教養ゼミ 世界の中の日本語・日本文化</p> <p>研究室の場所：教育学部棟 A205 E-mail アドレス：hnishi@hiroshima-u.ac.jp</p>	<p>(教養教育科目) (教養教育科目 ・オムニバス)</p>
渡部 倫子	<p>担当授業科目：日本語教育学基礎論 日本語教育課程論 学校日本語教育 日本語教育海外実習研究 日本語教育学特定研究 I 日本語教育学特定研究 II 卒業論文 世界の中の日本語・日本文化</p> <p>研究室の場所：教育学部棟 A309 E-mail アドレス：tomokow@hiroshima-u.ac.jp</p>	<p>(オムニバス)</p> <p>(教養教育科目 ・オムニバス)</p>
某	<p>担当授業科目：日本語の構造 日本語の語彙と意味 日本語位相論 日本語語彙論・意味論演習</p> <p>研究室の場所：教育学部棟 A203 E-mail アドレス：</p>	<p>(オムニバス)</p>
高橋 恵利子	<p>担当授業科目：日本語教育学基礎論 教養ゼミ 世界の中の日本語・日本文化</p> <p>研究室の場所：教育学部棟 A113 E-mail アドレス：e-takahashi@hiroshima-u.ac.jp</p>	<p>(オムニバス) (教養教育科目) (教養教育科目 ・オムニバス)</p>
小河原 義朗 (非常勤)	<p>担当授業科目：日本語の音声と発音</p> <p>研究室の場所：教育学部棟 A109 E-mail アドレス：ogawara@oia.hokudai.ac.jp</p>	<p>(集中講義)</p>
高山 善行 (非常勤)	<p>担当授業科目：日本語の変遷</p> <p>研究室の場所：教育学部棟 A109 E-mail アドレス：ytakayam@f-edu.u-fukui.ac.jp</p>	<p>(集中講義)</p>

難波 康治 (非常勤)	担当授業科目：日本語学習とマルチメディア 研究室の場所：教育学部棟 A109 E-mail アドレス：knamba@isc.osaka-u.ac.jp	(集中講義)
----------------	---	--------